

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1471902484
法人名	有限会社 ラブ
事業所名	ぐるーぷほーむ 梅の郷
訪問調査日	平成21年3月18日
評価確定日	平成21年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1471902484
法人名	有限会社 ラブ
事業所名	ぐるーぷほーむ 梅の郷
所在地	237-0072 横須賀市長浦町5-2-3 (電話) 046-860-0810

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F
訪問調査日	平成21年3月18日
評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(平成21年 3月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	12 人
利用定員数計	8 人
常勤 2人, 非常勤 10人, 常勤換算 4.9人	

(2)建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(350,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	7名	男性	名	女性	7名
要介護1	4名	要介護2	名		名
要介護3	2名	要介護4	名		名
要介護5	1名	要支援2	名		名
年齢	平均 80歳	最低 71歳		最高 89歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	横須賀北部共済病院、汐入メンタルクリニック、田澤歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは有限会社ラブの経営である。代表者は病院、ケアハウスの理事であったが、ご自分の関わったある利用者さんが安全、安心、笑いの中で過せる施設を望まれ、そのような過せるグループホームを目指して開所したものである。代表者はこの土地に特に係わりがあるわけではなくグループホームに適した場所と建物を選んだそうである。ロケーションはJR田浦駅から徒歩7分程度の車近距離にあり、トンネルとトンネル、16号線に囲まれた1区画にあり、隣接に付帯した元ガレージは広々として利用し易そうである。ホームはこのような2階建ての民家を改造したもので1ユニット8名のこじんまりしたものであるが、個々の部屋、廊下、リビング+台所はゆったりした作りであり、利用者も職員もフレンドリーでグループホームの初期の形態を今にのこしているかのような暖かいホームである。町内会にも加入し、近くの長浦公園で行われる町内の盆おどりや、夏祭りが行われると参加していたが、最近ADLの低下が進み、参加が難しくなったのは残念である。お隣のお宅とは良好な関係にあり、(他とも関係は良好だが日中不在のお宅が多い)庭の花見やお茶におじゃまするなど親しくお付き合い頂いている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、ケアマネジャーが昨年7月に交代となり、新管理者が内部昇格となった。新管理者の目指しているケアは、利用者へ寄り添い、家庭的な雰囲気を生かし、維持・向上することが狙いであり、毎日のアットホームなケアを継続している。この方針に沿ったケアにより、利用者さんの表情は明るく、ホームの雰囲気もフレンドリーである。今後の課題は外部との交流促進であり運営推進会議を活用して進める予定である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p>
	②	<p>今回の自己評価は新管理者としての初めての実施であり、職員の意見を会議や日常のミーティングを通じて収集し管理者が纏める方式で作成した。初めての実施であるため、職員への十分な周知が出来たかについては疑問も残るので、今回の評価のプロセスや評価結果を見た上で十分な話し合いや改善を実施したいと考えている。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>横須賀市では今年度より運営推進会議を従来のブロック毎の地域会議を年2回に減らし、新たに各グループホーム毎の事業所会議を開催することとなった。ブロック毎の地域会議には管理者が必ず出席しているが、残念ながら事業所会議は開催出来ない。この地域には町内会主催のいきいきサロン(高齢者が集まり、お茶、体操、ゲーム、歌などを皆で楽しむ会)があり、管理者を含めて5名が参加しており、民生委員も関与しているので、この流れの延長線上で運営推進会議を進めている。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族は半数の方は良く来てくれているが、残りのうちご家族に縁の薄い方が1~2名おり、後は仕事が忙しい方である。訪問される方には来訪時に健康状態、生活の様子や暮らしぶりをお知らせするようにしているが、来訪の少ない方には電話等で極力、情報をお伝えする努力をしている。また、お便りや写真もなるべくお届けするようにしている。ケアマネジャーは前の管理者が兼務していたので今回交代したが、ケアプラン作成に当っては職員に情報もらい、ご家族との連絡と了承を得ながら細目の介護項目をチェック表にまとめ、毎日の着実なチェックを行いつつ推進している。</p> <p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会の関連では前述のように盆おどりや、夏祭りへの参加は少なくなったが、地域の防災訓練への参加やお祭りのお神輿が中まで入ってくれるなど便宜を図ってくれている。中学校1校から体験学習を受け入れている。元職員がボランティアでフラワーアレンジメントを教えに来てくれている。前述のようにお隣のお宅とは、庭の花見やお茶におじゃまするなど親しくお付き合い頂いている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域住民の方との交流を深め、個人の生活習慣を尊重し、それぞれ役割を持って、家庭的な環境の下で、自分の身の回りのことが自分で出来るよう維持しつつ、笑顔で日常生活がおくれることを目指している。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の日々の穏やかな対応により、利用者さんが笑顔でいられるような環境を作り、職員間の話し合いを密にして、良いサービスを提供している。		今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	この地域には町内会主催のいきいきサロン(高齢者が集まり、お茶、体操、ゲーム、歌などを皆で楽しむ会)があり、管理者を含めて5名が参加している。地域の防災訓練や祭礼などへも参加している。		今後も継続して参加して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は新管理者としての初めての実施であり、職員の意見を会議や日常のミニミーティングを通じて収集し管理者が纏める方式で作成した。初めての実施であるため、職員への十分な周知が出来たかについては疑問も残るので、今回の評価のプロセスや評価結果を見た上で十分な話し合いや改善を実施したいと考	○	評価のプロセスや評価結果を見た上で十分な話し合いや改善を実施して行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横須賀市では今年度より運営推進会議を従来のブロック毎の地域会議を年2回に減らし、新たに各グループホーム毎の事業所会議を開催することとなった。ブロック毎の地域会議には管理者が必ず出席しているが、残念ながら事業所会議は開催出来ていない。	○	事業所会議の開催を進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横須賀市とは運営推進会議以外の目立ったお付き合いは無い。	○	サービスの質の向上の取組みを行政に伝えて行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族は半数の方は良く来てくれているが、残りのうちご家族に縁の薄い方が1~2名おり、後は仕事が忙しい方である。訪問される方には来訪時に健康状態、生活の様子や暮らしぶりをお知らせするようにしているが、来訪の少ない方には電話等で極力、情報をお伝えする努力をしている。		今後も継続して実施して行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアマネジャーは前の管理者が兼務していたので今回交代したが、ケアプラン作成に当っては職員に情報ももらい、ご家族との連絡と了承を得ながら細目の介護項目をチェック表にまとめ、毎日の着実なチェックを行いつつ推進している。管理者は勿論であるが、ケアマネジャーもその折にも家族の意見、不満、苦情を何うよう		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	チームケアに徹し、馴染みの職員を中心として、交代した職員の分をフォローし、不安が無いよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一部の職員に限定せず、能力に応じて研修に参加出来る機会を設けている。		今後も継続して実施して行く。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横須賀市のグループホーム連絡会、運営推進会議ブロック毎の地域会議を通じて研修や勉強会に参加している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所と云う形をとり、数日ホームで過ごしてもらい、他の利用者とのコミュニケーションを深めて入所してもらっている。見学の方も同様に他の利用者とのコミュニケーションを深めてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理をしたり、身体を動かしたりして利用者さんとのかかわりを深め、分からないことは教えてもらい、一緒にやっている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族との面談を通して意志の確認を行っている。普段の会話の中からも要望を聞き出せるよう、会話を多くし、信頼関係を築くようにしている。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを重要視し、本人、ご家族、職員の意見を聞き、モニタリングを行い、ケアカンファレンスでこれらを反映し介護計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うとともに、心身jの状況に変化が生じた場合は、本人、家族、職員、かかりつけ医と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体験入所と云う形をとり、数日ホームで過ごしてもらい、他の利用者とのコミュニケーションを深めて入所してもらっている。見学の方も同様に他の利用者とのコミュニケーションを深めてもらっている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族と話し合い、かかりつけ医の受診を支援している。往診は2週間に1回受けている。緊急時には連絡が取れる体制となっている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ一部のご家族としかお話しが出来ていないので、今後、全員と方針の共有をして行きたい。	○	全員と方針の共有をして行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人1人に合わせた言葉かけや対応をしている。人前での介助、声かけには気をつけている。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、声かけをしたり、やりたいこと、したいことを一緒にやっている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人の好みに合わせた味付けや調理法をしている。利用者と同じものを職員も食べている。味付けや調理法は利用者に希望を聞いている。一緒に準備や盛り付け、片付けをしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに希望を聞き、順番や温度にも気をつけている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人1人に合わせ役割(食事の準備など)や楽しみごと(散歩、レクリエーション)の支援をしている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のホーム近辺の散歩、町内会主催のいきいきサロン(高齢者が集まり、お茶、体操、ゲーム、歌などを皆で楽しむ会)への外出など行っている。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全のため玄関の鍵はかけている。		ご家族の了解を得ている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の防災訓練に参加している。今後、全職員の避難方法の徹底も図って行く。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人に合わせた水分、食事量や栄養バランスを確保している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が繋がっているので生活感を感じてもらうことが出来ている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使い慣れたものや、身の回りのものを自由に置いて使ってもらっている。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	ぐるーぷほーむ 梅の郷
所在地 (県・市町村名)	237-0072 横須賀市長浦町5-2-3
記入者名 (管理者)	佐藤 さつき
記入日	平成 21 年 3 月 7 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自分の身の回りの事が少しでも出来るよう支援する(出来る事の継続) 地域住民の方との交流を深める	○	個人の生活習慣を尊重し、それぞれの役割を持って家庭的な環境の下、笑顔で日常生活を送ること
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者さんが笑顔でいられるような環境をつくる 職員の日々の穏やかな対応、笑顔	○	もっと職員間との話し合いを密にしていき、サービス提供に反映していく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者さんとの交流の中で大切にしている事を見てもら	○	ご家族の方や、地域住民の方との交流を深めていきたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方と声をかけ合ったりしている 時々ではあるが立ち寄ってもらっている	○	もっと気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気と環境をつくる
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会で毎月開催されている「ふれあいいいききサロン」への参加をしたり、地域の防災訓練や祭礼等への参加をしている	○	地域の行事や活動への参加をし、交流を深めていきたい
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方との交流が限られている(隣近所の方や自治会の「ふれあいいきいきサロン」での交流)	○	利用者の方も交えた地域の方との交流
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の話し合い	○	自己評価時の話し合いや、改善に向けての計画や実施の取り組み
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催を活発に行う	○	一方的でなく課題解決に向けての意見をもらう
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	会議以外にも機会をつくり、交流をする	○	サービスの質の向上の取り組みを行政へ伝えていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持つ	○	全職員で学ぶ機会を持ち、必要性を話し合い、支援出来るようにする
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加(管理者)	○	他職員の研修の参加をしたり、職員間での情報交換や、学ぶ機会を持てるようにする
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者さんやご家族の方にわかりやすく説明をし、不十分な所はその都度納得や理解をして頂けるよう努めている	○	利用者さんやご家族にこちらから尋ね、話しやすい雰囲気をつくる
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすいような雰囲気が作れるよう場を和ませている	○	話しやすいような雰囲気と声掛けをしていきたい
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	その時々状況により、健康状態、暮らしぶりを家族に報告している	○	ご家族に定期的に報告が出来るようにしたい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	声掛け	○	家族会を設けたい ご家族の方へのこちらからの声かけ
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞いている	○	意見や提案を聞くだけでなく、反映に繋げる
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その状況に応じて勤務の調整を行っている		必要な時間帯の職員の確保や、調整を行っている
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員を中心とし、交代した職員のフォローをしている		馴染みの職員を中心にし、交代した職員への不安がないよう、フォローとバックアップをしている
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けている	○	一部の職員だけでなく、職員の能力に合わせた研修への参加
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会への参加	○	交流する機会を持ち、相互の活動を通じ、ネットワークづくりへと繋げる
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員への話し掛け	○	職員とのコミュニケーションをとり、話しやすい雰囲気をつくる
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の向上心の把握に努める		職員各自が向上心を持てるよう研修への参加に取り組む

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人への声かけをし、訴えをよく聞く	○	本人自身が話をしやすい機会をつくり、傾聴する
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族への声掛けをし、訴えをよく聞く	○	ご家族が話をしやすい声掛けや機会をつくる
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話しやすい雰囲気をつくる	○	ご本人とご家族の求めている事に耳を傾け、支援できるように対応に努める

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所という形をとり、数日ホームで過ごして頂いている見学時に他入所者さんとの交流ができるよう努めている	○	体験入所を通し、他利用者さんとのコミュニケーションを深めていけるように援助する
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に料理をしたり、体を動かしたりして利用者さんとの関わりを深めている わからない事など教えてもらい、一緒にやっている	○	利用者さんの得意分野で教えてもらったり、一緒にやっていく事の継続
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者さんとご家族と一緒に過ごす時間を大切にし、職員も交えた交流をしている	○	ご家族の方とのコミュニケーションをもっととっていきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族のコミュニケーションを見逃さない	○	ご本人とご家族の関係を理解し、より良い関係になれるよう支援したい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	交流の継続の支援	○	利用者さんの馴染みの人との交流を図り、関係が途切れないよう支援したい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の意思を尊重しつつ、孤立しないよう声掛けをしたり、利用者さん同士の関わりを持てるような場を作っている	○	声掛け 利用者さん同士が気軽に話せる空間を作ることの継続
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とする方への声掛け	○	継続的な関わりを断ち切らないよう、こちらからのコミュニケーションをとる

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族との面談を通し、意志の確認を行っている 普段の会話の中からも要望等を聞き取り、把握に努めている	○	会話を多くし、信頼関係を築き、意志を汲みとっていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や医療・関係機関と連携をとり、情報を収集しながら把握に努めている		ご家族の方へのヒアリング
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	担当者会議等を通じて、職員やかかりつけ医の意見も参考にしながら把握に努めている		職員とのコミュニケーションを密にとり、現状の把握をし、迅速な支援をする

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを行い、ご本人、ご家族、職員の意見を聞いた上で作成している(かかりつけ医に相談することもある)	○	アセスメント、ケアカンファレンス、モニタリングを継続して行っており、ご本人の希望を反映したケアプランを作成していきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行うと共に、心身の状態に変化があった場合はご本人、ご家族、職員、かかりつけ医に相談し、作り変えている	○	常に状態観察を行う

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録の記入を行い、職員全員で情報を共有している	○	誰が見てもわかりやすい記録にする

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の方の要望に沿った支援	○ その時々に応じて要望や状況に合わせた支援をしていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の活動に参加し、交流を図っている	○ 民生委員さん、ボランティアの方との協力で利用者さんのより良い支援をしたい
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設の相談員との面談を行い、ご本人やご家族の希望に合ったサービスを提供出来るよう努めている	他施設のケアマネジャーや相談員との情報交換を行っていききたい
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括の担当者と電話連絡や面談を通し、情報交換を行っている	現状態の継続
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の方と話し、かかりつけ医と受診の支援をしている2週間に一度、往診を受けている 緊急時に連絡を取り合える体制を設けている	○ 今の状態の継続
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医・関係機関と連携がとれている	今の状態の継続
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員の方との交流	<input type="radio"/>	地域の看護職の方と気軽に相談できる関係をつくりたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関との連携はとれている	<input type="radio"/>	病院関係者との情報交換、相談が出来るよう努めていきたい
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	一部のご家族との話し合い	<input type="radio"/>	全員で方針の共有をしていきたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チーム全体としての今後の準備、検討	<input type="radio"/>	かかりつけ医との連携をとり、変化に備えた準備や支援に取り組みたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご家族の方への情報提供や話し合い ご本人へのケア	<input type="radio"/>	ご家族、ご本人との話し合いや情報交換をしていきたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人に合わせた言葉かけや対応をしている 人前での介助、声掛けには気をつけている	○	記録、個人情報の取り扱いの見直し
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人への声掛けやコミュニケーションをとる事で、思いや希望を表してくれる	○	いつでも自分の希望や思いを表してもらえるように、コミュニケーションや声掛けの継続 一人一人に合わせた声掛け
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんへの声掛けをし、やりたい事、したい事をペースに合わせて一緒にやっている	○	利用者さんのペースに合わせた過ごし方や、やりたい事を支援していく

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者さんの行きつけの美容院へ行ったり来てもらっている (ご本人の希望により)		支援の継続
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好みに合わせた味付け、調理法をしている 利用者さんと同じ献立で同じものを職員も食べている		味付け、調理法など利用者さんに希望を聞いている 一緒に準備や下ごしらえ、盛り付けなどしている
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人が好きなのを聞き、一人一人の状況に合わせて提供している		安全性のあるものを見極めていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人に合わせた排泄パターンを知り、支援している		時間帯によって排泄のパターンを変えている
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者さんの希望を聞き、順番や温度にも気をつけている		夜間入浴の希望があった場合の対応
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者さんに合わせ、好きな時間に休息してもらったり、その時々状況に合わせて支援している		利用者さんの生活習慣や状況に応じ、支援する事の継続
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者さん一人一人に合わせた役割(食事の準備など)や楽しみ事(散歩、レクリエーション)の支援をしている		利用者さんを中心とした時間の使い方
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物へ行く機会をつくり、使えるよう支援している	○	もっと機会を多く持ちたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日のホーム近辺の散歩 自治会での毎月開催される「ふれあいいいききサロン」への外出	○	車椅子の方の外出がなかなか出来ないので、外出が出来るようにしたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コンサート、買い物などは行っている	○	少し遠くへ足を運べるよう、イベント等への参加も視野に入れたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		取り組みでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で本人が電話をしている		本人から希望があった時に電話をしやすいよう配慮している
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問して頂いた時や、連絡をして頂いた時に次回の訪問に繋げる声掛けをしている	○	馴染みの方との交流を深めていきたい
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていないので、しないケアの継続	○	正しくは理解出来ていないので、全職員が理解出来るように取り組む
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけている		ご利用者さんが安全で安心できるケアへの取り組み
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に見守りをしている 夜間の見回りを強化している		日中、ご利用者さんの状態を見ながら安全に配慮している 夜間、見回り時様子を観察
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険だと思う物品は状況に応じて目の届かない場所に置いている		取り組みの継続
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息をしないように常に見守りをし、誤薬を防ぐ為声掛け、見守りをしている	○	全職員が知識を学び、一人一人の状態の把握をし、事故防止に取り組む
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成している	○	全ての職員が応急手当や初期対応の仕方を学ぶ
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	町内会の避難訓練に参加	○	避難訓練の実施 全職員の避難方法の徹底
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人の状態の把握	○	ご家族の方との話し合いの場を設ける
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間、かかりつけ医との情報を共有し、対応している		体調の変化や異変に迅速に対応する
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時に使用している薬の内容を職員へ記録で伝えている	○	全職員が理解できるように確認する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操などをして身体を動かしている		便秘の原因、及ぼす影響を職員が理解する
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	声掛けをしたり、一緒に行っている(誘導、見守り)		一人一人の口腔状態の把握
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた食事量や栄養バランスを確保している	○	水分量の確保
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員間の感染症に関する予防法と対応策の理解	○	全職員がマニュアルを理解し、徹底し、実行する
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事の賞味期限に気を付け、新鮮でないものは使用しない 調理用具は消毒をし、衛生管理に努めている		今の状態の継続
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには花を飾ったり、その時々のもを飾っている 建物周囲は季節の花や野菜などの園芸に囲まれている		玄関まわりに手作りのもの(季節に応じて)を置いている
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所が繋がっているため、生活感を感じてもらう事が出来ている(五感刺激)		利用者さんが過ごしやすい環境を保つ
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間で自由に過ごしてもらえよう、ゆったりとした時間を作っている		利用者さんのペースを大切にしたい居場所づくり
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が今まで使い慣れた物や、身の回りの物を自由に置いて使ってもらっている		その人らしさを大切にしたい過ごしやすい空間づくり
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>利用者さんの状況に合わせ、換気、温度調節に努めている</p>		<p>利用者さんの体調、外気温に合わせた温度調節を行っている</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>階段、廊下、浴室に手すりを設置している(トイレ、脱衣所)</p>		<p>一人一人の状態に合わせ、安全な生活が送れるよう支援する</p>
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人一人の力を活かし、行動を制限せずに支援している</p>	○	<p>一人一人の状態の把握をし、安心して生活が出来るよう支援する</p>
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>建物の外周りに花を植えたり園芸をしている散歩をしている</p>		<p>利用者さんが楽しく活動できるよう支援する</p>

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんが笑顔で安心して過ごせるような環境づくり